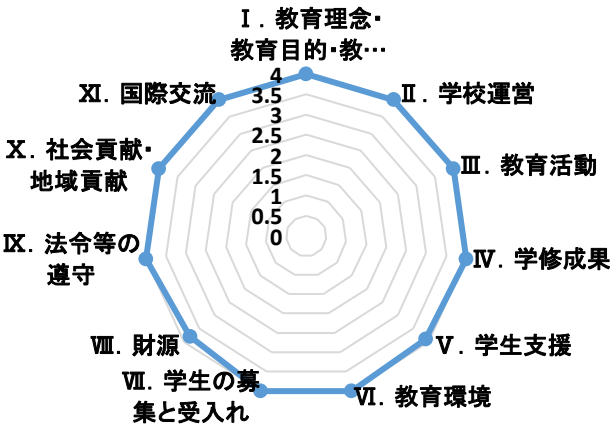
【令和６年度　学校評価結果】

＜自己点検・自己評価結果＞

カテゴリー（大項目）	R6 年度
Ⅰ. 教育理念･教育目的･教育目標	4
Ⅱ. 学校運営	4
Ⅲ. 教育活動	4
Ⅳ. 学修成果	4
Ⅴ. 学生支援	3.9
Ⅵ. 教育環境	4
Ⅶ. 学生の募集と受入れ	4
Ⅷ. 財源	3.8
Ⅸ. 法令等の遵守	4
Ⅹ. 社会貢献･地域貢献	4
Ⅺ. 国際交流	4



＜令和６年度　自己点検・自己評価　総括＞

カテゴリー	評　価
Ⅰ 教育理念 教育目的 教育目標	赤十字の基本理念である人道（ヒューマニティ）に基づき、豊かな人間性と看護に関する幅広い基礎的能力を備えた看護実践者の育成のために、講義や実習、行事等において、教育目標にもどり教育活動を実施している。各学年のガイダンス、保護者会、実習オリエンテーション、講師会議等で、学生や保護者、学校関係者（実習施設含む）に周知している。 学校運営会議（あり方検討）を開催し、当面の間は専門学校としての存続することを前提に、県内の看護師養成・確保状況をふまえて、定員の変更を決定した。
Ⅱ 学校運営	教育理念や教育目標をふまえ、中期計画から各年度の重点目標とアクションプランを立て、教職員の業務分担を決めて実施している。情報システム化においては、LAN整備を行い、教職員間の情報の共有が拡大していくことが可能となった。また、Wi-Fi 整備をすすめ、次年度その運用方法を具体的にしていく。 BCP 策定とそれに関連する危機管理マニュアル、感染対策のガイドラインを見直し、現在の状況に合わせて改訂した。

Ⅲ 教育活動	教育活動は、教育理念に基づき、教育目的目標の達成に向けて、体系的に編成したカリキュラムを構築している。COVID-19 が 5 類に移行したことで、今年度は授業形態も対面に戻り、すべての実習が臨地で可能となった。 学生に不利益のないよう、学生の状況に応じてオンラインにするなど対応している。また、学生個々の学習状況について担任・教員全体で把握し、必要に応じて支援している。入学する学生の基礎学力の低下も懸念されることから、さらなる学習活動の支援をしていく。 キャリア教育としては、看護観に基づき看護師に必要な知識・技術・態度の付与に加え、職業人になるという自覚や態度を育成し、対人関係の形成や問題解決などの能力の育成に努めている。進学に向けての情報提供や支援についても強化した。今年度は、卒業生より看護師として社会人としてのキャリア形成について講演をいただいた。 新カリキュラムの完成年度であり、教育の評価が求められる。講義・演習・実習における課題が明確になり、より良いカリキュラムになる様に検討を重ねている。講義の順序性が途中で変更になることもあり、その都度状況を確認し、対応している。現在の課題を更により良くするために検討を重ねる。 新カリキュラムを修了した学生(3 年生)の「卒業時の特性」の自己評価において、学年が上がっていくにつれて目標達成のポイントが向上しており、学生それぞれが自分の現在の状況と今後の課題を見出すことができていた。授業評価は、各担当科目修了時と各看護学実習終講時に実施しており、教授方法の改善や実習指導に活かすようにしている。また一部の外部講師による基礎科目と、院内講師による専門基礎科目について、試験的に授業評価を実施した。今後、教育の質の向上を図るためにも、授業評価のシステムづくりを検討していく。 資格要件を備えた教員確保のために、今後の教員養成・配置計画について病院と協議を継続していく。
Ⅳ 学修成果	資格・免許の取得については 100%を目指し、業者との連携を図りながら支援している。学生個々が主体的に学習に取り組めるように、学生の能力に応じた動機づけと支援を継続する。 就職・進学においては、全員が希望したところにすすむことができている。 設置医療施設に就職した卒業生の状況はある程度把握している。また、卒後 2 年目を対象にホームカミングデイを実施し、「卒業生の特性」について現在の状況を評価してもらった。その結果、教育理念や卒業後にも反映されていることが確認できた。
Ⅴ 学生支援	設置医療施設と連携し、就職に対する情報提供を行っている。年々就職試験が速くなっている傾向がある。そのため、設置医療施設以外の就職も視野に入れて早めに志望先を絞るべく、2 年次から業者の協力を得ながら、インターンシップへの参加を支援している。 学生相談においては、担任制をとり個別に対応している。また、意見箱の設置や「なんでも相談室」として自由面談の機会を設けている。また、校医に精神科医師を配置することや、専任カウンセラーの配置が難しいことから、設置医療施設の看護師へのメンタル支援のカウンセリング体制の中に、学生も対象として入れることや校医に精神科医師を配置するなど体制づくりをしており、必要なときに利用できている。学力や心理面等の問題解決のために、適宜、保護者との面談の機会を設け対応している。 令和 6 年 4 月から、合理的配慮の提供が義務化されたことから、障がいをもつ受験生、学生に対する合理的配慮につき、現状把握とともに段階的に検討し、規定を作成している。

	学生の経済的側面に対する支援においては、各種奨学金の紹介を入学時に行っている。高等教育支援新制度の対象校となっていることから、制度の活用に至っている。また、社会人経験者に対して教育訓練給付制度や多子世帯の修学支援新制度の拡充に伴い、学生の状況に応じた支援を行っている。
Ⅵ 教育環境	学校の施設・設備等は設置基準・関連法令などの基準を遵守し、教育上必要な環境を整えている。既存の施設をバリアフリー化することは、経済的にも難しい。そのため施設の経年変化に対しては、安全で快適な環境で学習に専念できるように定期的にメンテナンスを行っており、今年度は更衣室の壁の修繕を行った。防災安全管理においては、BCP 危機管理マニュアルに基づき地震を想定した BCP 訓練を教職員、学生を含め行い、その評価を活かして BCP 改訂を行った。その際、課題として挙げられた緊急連絡や搬送の方法、簡易トイレの設置など具体的な検討、対応をしている。棚等の転倒防止の対策は順次進行中である。また、防災委員会を中心に、ハザードマップの喚起や訓練の周知なども行い、学校全体の防災対策に関する意識が高められた。
Ⅶ 学生の 募集と 受け入れ	学校説明会やオープンキャンパス等で、赤十字の看護教育の魅力を伝え、良質な学生の確保に努めている。受験生の必要としている情報は、受験生からのアンケートで把握しており、今年度は「学校案内」を「デジタルパンフレット」としてホームページに掲載した。広報活動での反応はよいものの、受験生の増加には反映されない現状がある。一般入学試験の受験生の減少もあり、今年度、急遽指定校推薦・社会人選抜入試の二次募集を実施したが、受験生の確保につながらなかった。少子化が進む一方で、県内では看護を学べる教育機関が増え、さらに大学志向あるにことが要因としてある。令和 8 年度から定員 40 名とし、定員確保に向けて入学選抜方法等の検討を早急に行っている。
Ⅷ 財務	学校会計は、設置医療施設とも連携しながら、適切に会計処理を行っている。学生一人当たりの経費は増加し、設置医療施設の負担が増えており、財政的に大きく依存している。入学試験受験者や学生数が減少していることや、価格高騰の影響もあり、一層財務改善への取り組みが必要である。 学校建設 28 年目となり、単年度のみならず中長期的な施設設備の補修、教材備品の更新も見込んで計画を立てていく。
Ⅸ 法令等 の遵守	赤十字看護専門学校における学校評価ガイドラインに沿って、点検・評価を教職員間で協議し、学校改善に取り組んでいる。また、保護者に対し学校運営についてアンケートを実施し、評価結果については運営会議やホームページに公表している。 個人情報保護やソーシャルメディアの適正利用、ハラスメントの防止については、実習施設にも説明しガイドラインに則り運用している。
Ⅹ 社会貢献 地域貢献	設置医療施設や支部、社会福祉協議会、長岡市等からのボランティアの要請には、積極的に応えている。今年度は、学年単位でのボランティアの要請について、時間割に組み込んで参加を支援した。
Ⅺ 国際交流	国際的視点を広げるための外国人講師による「英会話」の充実や、「異文化論・グローバルヘルス」で、諸外国の文化に目を向け在留外国人との交流を図っている。また、「災害医療論」では国際看護について教授するとともに、災害看護学演習において外国人の被災者対応など、教育方法の工夫をしている。 海外研修制度の紹介はしているが、実施は難しい状況である。

＜学校関係者評価結果＞

保護者の皆様には、学校評価アンケートにご協力いただきまして誠にありがとうございました。

学校評価結果をふまえ、教育の状況や学生の様子、学生生活の状況等を、保護者の皆様にわかりやすくお伝えできるよう、学校ホームページの充実を図るとともに、引き続き保護者の皆様と連携し学生を支援していきたいと考えております。

保護者の皆様からのご意見等を真摯に受け止め、学校運営に生かすとともに、これからも当校の教育理念に沿った質の高い看護師を養成してまいります。

点数平均（4 点満点）

設問	学 校 評 価 内 容	R4年度	R5年度	R6年度
1	学校は、教育理念・教育目的・教育目標の達成に向けて教育活動に取り組んでいる。	3.76	3.88	3.87
2	教員は、教育科目の目標に照らし、授業内容・授業方法を工夫し実施している。	3.66	3.77	3.77
3	学校は、臨地実習施設と連携し、臨地実習における看護実践の学習を支援している。	3.72	3.79	3.79
4	学校は、個々の学生にあった方法で学習支援を行っている。	3.17	3.37	3.42
5	学校は、進学や就職を支援する体制を整え支援している。	3.56	3.63	3.54
6	学校は、看護師国家試験に対する支援体制を整え支援している。	3.67	3.81	3.72
7	学校は、学生の健康管理に取り組んでいる。	3.47	3.58	3.64
8	学校は、教育上必要な施設・設備・教育用具等を整備している。	3.55	3.65	3.58
9	学校は、学生の要望を把握し、快適で充実した学校生活が送れるよう支援している。	3.40	3.37	3.40
10	学校は、学内における防災・安全管理等、危機管理体制を整備し、適切に運用している。	3.61	3.61	3.60
11	学校は、学生に対してソーシャルメディアの適正利用や個人情報の管理に関する啓発及び教育に取り組んでいる。	3.40	3.54	3.56
12	学校は、保護者に対して教育活動の状況や学生の様子等の情報提供を適切に行っている。	3.49	3.38	3.40
13	ホームページにより、3学年の学生生活がイメージできる。	3.25	3.28	3.34
14	看護師（専門職）を目指す学生としての自覚を感じる。	3.68	3.58	3.64
15	赤十字の活動に関心をもっている言動を見聞きする。	3.51	3.47	3.58
16	日常生活の場面を通し、社会人としての成長を感じる。	3.53	3.47	3.61